



学校だより

北の子通信

秦野市立
北小学校

10月号

令和8年
10月1日

自主的に学びたくなる授業づくり

8月31日(月)中央教育審議会の特別部会から2030年度(令和12年度)以降の学習指導要領の改定案が提示されました。「生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、自らの人生を舵取りすることができる民主的で持続可能な社会の創り手を「みんな」で育て、以下、以下の3点において方向性が示されました。

- | | | |
|------------------|---------|-----------|
| ①主体的・対話的で深い学びの実装 | ②多様性の包摂 | ③実現可能性の確保 |
|------------------|---------|-----------|

翌日9月1日(火)には、各報道機関から次期学習指導要領のポイントが一斉に報道されました。主なポイントとして授業時数に関しては、45分を40分にする等カリキュラムの柔軟な運用が示されました。教科に関しては、総合的な学習(探究)の時間に「情報の領域」を新設する等の情報教育の拡充が示されました。

私たちは、上記情報を令和6年12月には把握し、令和7年度4月から40分授業等を試行しながら、教員と子どもが向き合う時間の確保に努めてきました。今年度は、高学年を中心とした情報リテラシー教育等も含めたミライシードによるテストパークやドリルパークの本格運用にもチャレンジさせていただいているところです。40分授業を基本とした日課表の試行に際にも、保護者の皆さまからの様々なご不安に応えてきた経緯があり、現在の安定したカリキュラムの柔軟な運用につながっていると感じています。一方テストパークやドリルパークは、高学年保護者の皆さまによる紙のテストやドリル購入負担を軽減していますが、結果の確認方法やクロームブック上での操作不具合等の課題を見出しているところです。夏の面談時にも同様のご心配の声を寄せていただいたことから、今回改めてテストパークやドリルパーク等の活用・運用方法について別紙にてお知らせさせていただきます。学校と共にお子様の学力向上にご理解・ご協力をお願いします。今後も北小では、子ども(保護者の皆さま)にとっても、先生方にとっても通いたい(通わせたい)・勤めたい学校をめざし、不易流行のバランス感覚と合意形成を大切にしつつ、施設分離型義務教育学校開校を見据え、豊かな学びづくりを地域や保護者の皆さまのお力添えをいただきながら進めていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願い申し上げます。